

FAトップインタビュー

創業40周年を迎えたアドバンテックの現在と未来

AI×IoT、エッジコンピューティングに活路

アドバンテックは10月26日と27日、台湾(台北)に構える同社・林口キャンパスで、創業40周年を迎えるアドバンテックの「過去」「現在」の理解を深め「未来」を示すワールドパートナーカンファレンス「2023 Advantech Industrial IoT World Partner Conference」を開催。カンファレンスでは、AIとエッジコンピューティング活用をテーマに講演や展示が行われ、北米、欧州、日本、韓国、アジアなど約60の国と地域から、共創パートナー約800人が集まった。製造業の未来とAI、エッジコンピューティングに加え、アドバンテックの現状とこれからのついて、創業者のKC Liu氏と、AVP of インダストリアルIoTのJash Bansidhar氏に話を聞いた。

AIと共創で次のステップへ



アドバンテック 創業者 KC Liu氏

AI×IoTがこれからの鍵に

— AIに対する取り組みを教えてください
機械学習に代表される従来のAIは、ビジネスに対するインパクトはそれほど大きくなかったのですが、生成AIの登場でその環境は激変しました。実際にここ数カ月で世界のプレイヤーも様変わりしています。今後、領域毎に機能を統合したソリューションがビジネスモデルとしても優れたものになっていくと見ています。

AIは「インダストリー4.0」に比べてもインパクトが大きく、今後AIが「インダストリー4.0」を飲み込んで行くと思います。アジア、台湾ではすでに「インダストリー4.0」という言葉は使われなくなりました。今後はAI×IoTにこだわって事業を展開していくつもりです。

より低コストで装置同士がつながり 若手が活躍する世界へ

— 製造業がより魅力的になるためには何が必要ですか？

装置同士の連携が必要だと思います。今でも「各装置がネットワークにつながって、それらのデータを活用すべき」と言われていますが、実際はつながっていません。また、その「つなげる」ことを日本企業がやろうとすると、システムインテグレーションコストが高くなってしまいうる現状もあります。早く、安くつなげられるようにするのが、より製造業が魅力的になるために必要なことだと思います。また、若手が活躍する場を作る必要もあります。製造業にはAIを活用する場がたくさんありますし、非常にエキサイティングな業種です。AIを活用できる人がどんどんこの業界に入ってきてもらい、活性化してほしいです。

売上高3700億円規模まで成長 共創で差別化を図る

— アドバンテックの状況について教えてください
現在社員は約9000人、売り上げは約25億ドル(約3700億円)の規模になりましたが、従来の産業用PCだけでは競争を勝ち残っていくのは厳しいと見ています。特に台湾、中国のメーカーが力をつけてきているので、今後は共創によるソリューション提供により、差別化を図っていく予定です。2023年は市況が厳しく、中国市場が特に苦戦してしまっているのが現状です。グローバルではシュナイダーエレクトリック、シーメンス、ロックウェルオートメーションなどが競合だと思われていますが、そうは考えていません。



2023 Advantech Industrial IoT World Partner Conference

October 26th - 28th, Taipei, Taiwan

欧・米、日本トレンドの違い



AVP of インダストリアル Jash Bansidhar氏

— 欧州地域を統括されていますが、各地域でのIoTへの取り組みに違いはありますか？

明確にあります。例えばEUではドイツが先頭となってIoTの取り組みが進められていますが「標準化」が徹底されています。また、日本では自動車業界がリードし、「品質」に対する取り組みが進んでいます。一方米国は「Made in USA」が価値を持ち、製造業の国内回帰が顕著です。

EV化で自動車の作り方・制御も変わる

— 業界ごとにIoTへの取り組みに対する違いはありますか？

自動車業界がIoTへの取り組みをリードしているのは各地域共通ですが、業界ごとに違いはあります。特に物理的な違いは分かりやすいです。自動車業界はPLCで装置を制御しますが、半導体

業界はもともとPCでの制御が基本です。当然PC制御の方がIoTとの親和性は高いです。今後自動車の動力もエンジンからモーターに変わり、EVが主力となってくると作り方も変わってくると思われ、パートナーと一緒に提案を強化していきたいと考えています。

— 30年の経験の中で、ものづくりで変わったこと・変わらなかったことを教えてください

半導体は外注化が進みました。一方で、アジア中心に行われてきたローコスト製品の製造も含めて、製造業のEU回帰が始まっています。ロボットや自動化技術の活用が必要です。

裾野が広い製造業に注目

— 注目しているマーケット(地域、業界)を教えてください

製造領域に注目しています。特に、装置製造業、食

品・飲料業界などにも関心があります。ただし、製造現場だけではなく、サプライチェーン、物流、エネルギー管理など、広い意味で注目しています。

共創とイノベーションがアドバンテックの強み

— アドバンテックの強みについて教えてください
創業者の考えでもある「共創」「イノベーション」などが文化として浸透しているという「DNA」が強みだと感じています。IoTについてもどこよりも早く着目し、世界最先端のビジョン「Enabling an Intelligent Planet」が浸透しているのも一例です。私たちのビジネスは全ての産業につながるという非常に魅力的なものであり、このDNAを次世代につなげていくことも重要だと感じていますし、非常にやりがいも感じています。

ADVANTECH Enabling an Intelligent Planet

工場をいろんな無線でつなぎます

ECU-1051(LTE/Wi-Fi)
ECU-150(LTE/Wi-Fi)
ECU-1252(LTE/Wi-Fi/CAN)
エッジゲートウェイ

ARM A8 ARM A53x4 ARM A8

WISE-4220(Wi-Fi 2.4G)
WISE-4210(SUB-G)
WISE-4471(NB-IoT/LTE-M)

WISE-2210(SUB-G)
WISE-2211(SUB-G)
WISE-2200-M(LoRaWAN)
CT給電対応/アナログ入力

WISE-4610 (LoRaWAN)
WISE-4671 (NB-IoT/LTE-M)

WISE-40XX (Wi-Fi 2.4G)

WISE-S100
タワーライトセンサ後付け

WISE-2410(LoRaWAN)
WISE-2410X(LoRaWAN)
振動センサ電池駆動型

いろいろ選択可能な入出力を提供

アドバンテック株式会社

https://www.advantech.com/ja-jp/



[東京本社] 〒111-0032 東京都台東区浅草6-16-3

TEL : 03-6802-1021 FAX : 03-6802-1022

[大阪支店] TEL : 06-6267-1887 FAX : 06-6267-1886

[名古屋支店] TEL : 052-291-4860 FAX : 052-291-4861

FA業界掲示板

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/topics/>

■三菱電機、特別コラム「愛すべき後輩たちへ」最終回「女性もぜひキャリアアップを目指してください！」公開

三菱電機は、FAデジタルマガジン「The Art of Manufacturing—ものづくり」で、特別コラム「愛すべき後輩たちへ」の第4回「女性もぜひキャリアアップを目指してください！」(最終回)を公開した。

ものづくりの世界で働く女性たちがその魅力と可能性について語り合った特別コラムで、最終回となる4回目は、女性ももっと生き生きと働きたいという考え方や行動について、それぞれの経験に基づく助言・金言、座談会の締めくくりには、愛すべき後輩に向けた先輩たちからの心のこもったメッセージを紹介している。



■富士電機、「富士電機技報」の新製品紹介論文「デザインを一新した『コマンドスイッチ』」公開

富士電機は、技報「富士電機技報」の新製品紹介論文として「デザインを一新した『コマンドスイッチ』(φ16系、φ22系)」(著・高野芳弘氏)を公開した。

近年、工作機械メーカーなどでは商品価値を向上させるため、製品構成要素である「コマンドスイッチ」に対しても従来のFQCDだけでなくデザイン要素が新たに要求されるようになり、次世代の機械や装置などに採用されるための重要な要素となっている。φ16系コマンドスイッチは、1978年の発売当初からデザインを変更することなく350種類以上の機種を生産してきたが、44年を経て、ユーザーからデザインの刷新を求められるようになり、このたび次世代の機械、装置にも親和するデザインに製品を一新して発売した。



■富士電機、「富士電機技報」の新製品紹介論文「ストライカ引外し式限流ヒューズ付高圧交流負荷開閉器」公開

富士電機は、技報「富士電機技報」の新製品紹介論文として「ストライカ引外し式限流ヒューズ付高圧交流負荷開閉器」(著・小野簡士氏・徳永圭秀氏)を公開した。

近年の「プラスチックに係る資源循環の促進などに関する法律」などにより、環境への影響を考慮した樹脂材料の使用が幅広い産業分野に求められており、産業設備においても無視することはできない。



きず、閉閉器内で用いられる絶縁部品に廃棄やリサイクル性を考慮した材料の使用が求められている。今回、同社は環境配慮したストライカ引外し式限流ヒューズ付高圧交流負荷開閉器を開発した。



■フェニックス・コンタクト、国際ロボット展で紹介したイチオシ製品紹介動画を公開

フェニックス・コンタクトは、先日行われた国際ロボット展・IREXに出展し、そこで出品した製品・技術の中で、イチオシ製品3種を3分で紹介する動画を公開した。

動画では、定格1000V24Aで6.35mmピッチの大電流用プリント基板用端子台「SPC4シリーズ」、電源、通信、信号を1つのコネクタとケーブルで伝送できる金属製丸型ハイブリッドコネクタ「SHシリーズ」、シングルペアイーサネット対応製品として「SPEコネクタ」「SPE対応スイッチングハブ(マネージドスイッチ)」を紹介している。



■ワゴジャパン、静岡オフィスの住所表記を変更

ワゴジャパンは、静岡県浜松市の区再編に伴い、2024年1月1日から本社静岡オフィスの住所表記を変更する。変更後は、静岡県浜松市中央区田町223-21ビオラ田町。

■日立、国内向けのエネルギー&ファシリティマネジメントサービス事業強化に向けて会社分割

日立製作所は、国内向け事業であるエネルギー&ファシリティマネジメントサービス事業の強化・拡大に向け、同事業や分散型電源ソリューション事業などを担うエネルギー事業統括本部のカーボンニュートラル事業部を、会社分割によって、100%子会社の日立パワーソリューションズに承継する。

カーボンニュートラル事業部が有する、エネルギー&ファシリティマネジメントサービスや分散型電源ソリューションなどのカーボンニュートラル関連事業に関するコンサルティング、設計、製品・システム導入、サービス提供、品質保証などの機能を日立パワーソリューションズに承継する。

■パナソニック、配線器具、電路機器、電設盤、配管機材、住宅システムなど価格改定

パナソニックエレクトリックワークス社は、配線器具、電路機器、電設盤、配管機材、住宅システムの各商品群について、2024年4月1日から価格改定を行い、5~50%の値上げをする。対象商品は、配線器具のスイッチ・コンセントなど(コスモシリーズワイド21、フルカラーなど)、電路機器のブレーカ、タイムスイッチなど、電設盤のアロー盤・リオーダー・キャビネットなど、配管機材の電線管・付属品・引き込みポール・樹脂可とう管、ダクト、ACアクセサリなど、住宅システムの電気錠・警戒スイッチなど。

■東芝、無線LANと共存するマイクロ波遠隔給電システムを開発 バッテリーレスのセンシング等への応用に期待

東芝は、離れた場所に電力を無線で送ることができるマイクロ波遠隔給電システムについて、世界で初めて周辺の無線LAN(Wi-Fi)通信に干渉することなく、狙った場所に効率良く電力を送る(給電)ことができる干渉回避機能を搭載した「給電技術」と、受電アンテナの向きにかかわらず高効率に電力を受け取ることができる「受電技術」を開発した。

同技術は、無線LANと産業機器用の数多くのIoTセンサーを活用する工場の製造現場や物流倉庫などでの応用が期待でき、センサをバッテリーレスで動作して絶え間なく動く製造現場を効率的に継続してセンシングし、DX化や省人化の進展による生産性向上、カーボンニュートラルに向けた取り組みにも貢献する。

■東芝と東芝インフラシステムズ、ローカル5Gと電波マップによる移動ロボット群のリアルタイム制御に成功

東芝と東芝インフラシステムズは、電波マップに基づきロボットの移動経路を制御する技術の世界で初めて開発し、ローカル5Gを活用したサーバー集約型技術で移動ロボット群のリアルタイム制御に成功した。

ロボットの「頭脳」に当たる機能はサーバー側に集約し、ロボット本体は「運ぶ」機能に絞ることで、ロボット1台当たりのコストと消費電力を低減。これにより中・大規模の物流倉庫や工場などの自動搬送システムの導入コストを約10%低減し、ロボットの消費電力も約14%低減され稼働率が約16%向上する見込み。

さらに、複数の同種類・同サイズのロボットが協調して一つの荷物を挟みこみ搬送する協調搬送技術も開発し、搬送する荷物の大きさ・重さに応じて、異なる種類・サイズのロボットを導入する必要がなく、自動搬送システムの導入コストをさらに低減できる。

■NECファシリティーズ、NTT厚木研究開発センター廃液処理設備の制御盤更新を受注

NECファシリティーズは、NTT厚木研究開発センター廃液処理棟内の制御盤設備更新の設計と施工を受注した。稼働開始は2024年8月を予定している。

同社はこれまで同研究開発センターの環境付帯設備の構築やリニューアルを手掛けており、設備稼働状況や特性、工程を熟知し、複雑な工事も停止リスク回避を最優先に安全・安心な工事を実施してきた点が高く評価された。

今回の改修では、廃液処理設備の安定稼働かつ監視機能向上を目的とし、設備運用・現場管理で培った豊富な知見とIoT技術を組み合わせて遠隔での確認操作やIT機器による合理的なデータ管理ができ、施設全体最適化を可能とする。



■日本航空電子、次世代シングルペアイーサネット「DZ17シリーズ」開発中

日本航空電子工業(JAE)は、次世代シングルペアイーサネット(SPE)コネクタとして「DZ17シリーズ」を開発している。

SPEは次世代イーサネット規格として徐々に実用化が進みつつあり、従来は2ペアまたは4ペア(8極)で行っていたイーサネット通信を1ペア(2極)で行う技術で、データ伝送と電力供給を重畳し伝送を行うことが可能(PoDL対応)。

DZ17シリーズは、IEC63171-6規格適合コネクタ(非防水タイプ)で、IEEE802.3cg/bw/bpのイーサネット規格に対応し、データレートは10Mbps/100Mbps/1Gbps、定格電流4A、定格電圧60VDC、保護等級IP20、引張強度は50N以上、挿抜寿命1000回。

■山洋電気、2024年4月から社内カンパニー制を導入

山洋電気は、クーリングシステム事業部、パワーシステム事業部、サーボシステム事業部の3事業部による経営体制を再編し、2024年4月1日から社内カンパニー制を導入する。新組織(旧組織)は、サンエースカンパニー(クーリングシステム事業部)、エレクトロニクスカンパニー(パワーシステム事業部・サーボシステム事業部(アンプ・ドライバ部門))、モーションカンパニー(サーボシステム事業部(モータ部門))。

■NSKと東工大、「NSKトライボロジー協働研究拠点」を設置

日本精工(NSK)と東京工業大学は、東工大すずかけ台キャンパス内に「NSKトライボロジー協働研究拠点」を設置した。

両者と2020年からベアリングをはじめとした転がり機械要素のトライボロジーを解明するための鍵となる技術である材料、潤滑、力学の3分野の個別の共同研究を推進してきた。同所では、これまで材料、潤滑、力学それぞれ個別に行っていた研究3分野を総合的に研究し、NSK単独では解決が困難な課題について、本質を理解して現象を解明すると同時に、従来の研究をより深化させ、転がり軸受製品の寿命延長や性能向上など、高機能な軸受製品や直動製品の創出につながる画期的なソリューションを産み出していく。また両者の研究者が相互交流を緊密に行い、高度な基礎研究を推進できる人材の育成にも継続的に取り組む。



■日本トムソン(IKO)、3月12・13日に熊本でプライベートショー開催

日本トムソン(IKO)は、2024年3月12・13日に、熊本県のグランメッセ熊本で、MEKASYS(メカシス)と共同でプライベートショーを開催する。

■カナデン、製品サイト2周年キャンペーン アンケート回答者には抽選で10人にデジタルギフト券2000円分進呈

カナデンは、取り扱い可能な製品やソリューション、工事および施工業者情報を網羅した情報サイト「カナデン製品サイト」について、オープン2周年を記念したキャンペーンを実施している。簡単なアンケートに回答した人の中から抽選で10人にデジタルギフト券2000円分をプレゼントしている。応募期間は2024年1月23日まで。



BlackBear TechHive Japan株式会社
東京都千代田区丸の内1-1-3
日本生命丸の内ガーデンタワー3F
03-4530-3390

産業用データダイオード- BIG9000



Your Security is Our Duty

OTサイバーセキュリティのための
堅牢なハードウェアソリューション



www.blackbear-ics.com/ja

TEL : 045-543-5621
HP : www.otax.co.jp

MADE in MARKET

現地で開発。現地で製造。



- EASYTITE MECHATRONICS (WUXI) CO., LTD.
- OTAX SHANGHAI LIMITED
- OTAX KOREA CO., LTD.
- OTAX CO., LTD.
- OTAX ELECTRONICS (SHENZHEN) CO., LTD.
- AUTOSYS INTELLIGENT EQUIPMENT CO., LTD.
- OTAX SEIKI (GUANGDONG) CO., LTD.
- OTAX HONG KONG LIMITED
- OTAX ELECTRONICS (THAILAND) CO., LTD.
- OTAX MALAYSIA SDN.BHD.

<h3>DIPスイッチ</h3> <p>スライド ピアノ ロータリー</p>	<h3>操作スイッチ</h3> <p>トグル ロッカー 押ボタン</p>
<h3>金属加工関連</h3> <p>アルミニウム加工 MIM・精密ネジ</p>	<h3>コネクタ</h3> <p>各種コネクタ テストソケット</p>
<h3>ヘルスケア</h3> <p>医療機器 ウェアラブル</p>	<h3>端子台</h3> <p>FA用 エアコン用</p>



otax オータックス株式会社 TEL : 045-543-5621
HP : www.otax.co.jp
本社 : 〒223-8558 神奈川県横浜市港北区新羽町1215

PHENIX CONTACT
100 years of passion for technology and innovation
35th ANNIVERSARY
 フェニックス・コンタクトは2023年ドイツ本社創設100周年 日本法人設立35周年

不可能を、可能に — それが、SICKのセンサインテリジェンス。
SICK
 Sensor Intelligence.
 本社：東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー 13F TEL. 03-5309-2115
 URL <https://www.sick.com/jp> e-mail support@sick.jp

Electronics Solutions Company
KANADEN
 株式会社 カナデン

電気設計から製造までデータがつながる
EPLAN
 Efficient Engineering is when a PLAN becomes EPLAN.

Empower Connections
 つながりを力へ
WAGO

工場新設・増設、設備投資情報

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/factory/>

国内

■クラボウ、熊本県菊池市の熊本事業所の新棟「Kumamoto Innovation Center(仮称)」建設に着手

クラボウ化成品事業部は、熊本事業所(熊本県菊池市)の新棟「Kumamoto Innovation Center(仮称)」の建設工事に着手する。熊本事業所は2012年から半導体製造装置に使用される高機能樹脂加工品の生産・開発・営業を行っており、今後も継続的な成長が見込まれる半導体市場での需要に対応するため、2022年に新棟の建設予定地として隣接している土地を取得していた。今回の同地に約31億円を投資して新棟として「Kumamoto Innovation Center(仮称)」を建設し、生産能力と開発体制を現状の2倍以上に増強する。新棟は高機能樹脂加工品の生産を行い、敷地面積5467平方メートル、鉄骨2階建て延床面積は6829平方メートル。クリーンルームと高機能樹脂の各種加工設備、評価・分析関連装置、自動倉庫などを備える。竣工は2025年3月を予定している。

■イトアンドフーズ、群馬県邑楽郡板倉町の関東第三工場に餃子・焼売の生産ラインを増設

イトアンドフーズは関東第三工場(群馬県邑楽郡板倉町)に、餃子・焼売の生産ラインを増設する。増設するラインの稼働は、2024年3月を予定。生産能力を現在の約1.2倍に拡大し、冷凍餃子市場に対する供給体制を強化する。関東第三工場は、2023年1月に稼働を開始した日本最大・最速級の餃子製造工場で、主力商品である「大阪王将 羽根つき餃子」を製造している。生産量は同工場稼働以前に比べて約1.5倍に増加したが、内食需要の拡大は続き、成長も見込まれていることから、このたび新たに餃子・焼売の生産ラインを増設することとした。

新ラインは、現在「大阪王将 羽根つき餃子」を製造している既存レーン隣のエリアになり、新ラインは「大阪王将 羽根つき餃子」と「大阪王将 たれつき肉焼売」のハイブリッド式ラインとなる。2つの製品を切り替えるから生産し、人気の「大阪王将 羽根つき餃子」の生産能力を16%増加しつつ、「大阪王将 たれつき肉焼売」の生産力を約2倍に増強する。商品のリニューアルに伴う製造工程や包装工程の変化・刷新にも対応できるようにする。また、自然冷媒を用いたスパイラルフリーザーを採用し、100%省エネ型自然冷媒の冷凍冷蔵設備を導入

Fukunishi
 人・技術・情報の架け橋となり、最適解で「福」あふれる未来をつくる。
福西電機株式会社

して温室効果ガス削減を進める。関東第三工場は、最大で5つのラインの導入が可能。新ライン増設後、残りのエリアでは新カテゴリの生産を検討している。投資総額は約7億円。

■飛騨産業、岐阜県高山市奥飛騨に温泉熱を活用した木材乾燥設備導入の新工場「奥飛騨栃尾工場」

飛騨産業は、岐阜県高山市奥飛騨の奥飛騨温泉郷に、温泉熱を利用した木材乾燥室を備えた「奥飛騨栃尾工場」を新設した。広葉樹材の乾燥は、割れ、狂いの発生を抑えるために、天然乾燥を10カ月程度実施し、その後人工乾燥を行うのが一般的。今回同社が開発した乾燥方法は、温泉熱を熱源とする乾燥室を15室作り、個別の温度設定をしながら4〜6週間で乾燥させることができ、乾燥期間の大幅な短縮に加え、木材の含水率を高度な水準である8%程度まで下げることができる。乾燥時間は外気の影響や材種、含水率によって変わるため、温度安定化対策として温泉の温度を電熱器で調整する。生産能力は製材品1000平方メートル/年。敷地面積は1360平方メートル。2023年4月に着工し、2023年10月竣工。

■山福、宮崎県東諸県郡綾町の宮崎支社の食品工場を増設

業務用食品(珍味・惣菜など) 製造業として料亭やホテルなどプロ向け業務用食材を専門的に扱う山福は、宮崎県東諸県郡綾町大字北俣4181番地1の宮崎支社の食品工場を増設する。新工場は、宮崎県食材にこだわった家庭用おせち料理のEC小売やテレビ通販への展開に向けた生産体制の確立を目的とし、具体的には、セントラルキッチンとしての新工場を増設し、最新の設備を導入する。敷地面積は6924平方メートル、建築面積は2413平方メートル、延床面積は2811平方メートル。設備投資額は2023年度に1590万円、2024年度に5億円。

■JFEスチール、神奈川県川崎市の東日本製鉄所(京浜地区)に廃プラスチック処理設備の導入

JFEスチールは、CO₂排出削減の一環として使用済みプラスチックの利用拡大を図るため、神奈川県川崎市川崎区の東日本製鉄所(京浜地区)に新たに廃プラスチック処理設備を導入する。産業廃棄物由来の廃プラを処理可能な設備としては国内最大級となる。廃プラ処理能力は年間6万トン。今回の投資は、本社における廃プラ利用拡大の第一段階として位置付けており、2030年度までに、さらなる能力増強により廃プラ処理能力を最大で約2倍程度まで引き上げる予定。投資は67.5億円。2024年10月稼働開始。

■日鉄ステンレス、山口県周南市の山口製造所のスラブ用連続鋳造設備をリフレッシュ

日鉄ステンレスは、品質対応能力の向上と高付加価値

値・難製造製品のメニュー拡大のため、山口県周南市の山口製造所光製鋼工場のスラブ用連続鋳造設備をリフレッシュする。生産能力は年間約50万トン。約320億円を投資してリフレッシュを行い、2026年度上期に稼働を開始する予定。

■日本チバガイギー、兵庫県丹波篠山市の篠山工場を製造施設を拡張

ノバルティスファーマは、放射性リガンド療法(RLT) 製造のため、兵庫県丹波篠山市の日本チバガイギー篠山工場の製造施設拡張する。RLTは、体内のいろいろな部位に存在する標的腫瘍細胞に対し放射線を照射する一方で、周辺組織へのダメージを抑える精密な核医学の一種。同社は進行がんに対するRLTの活用に関する研究を進めるとともに、RLTの供給確保のための生産力強化に取り組んでおり、篠山工場の製造施設拡張は、日本での治療アクセス推進に向けた大きな前進と位置付けている。

■日立ハイテク、茨城県ひたちなか市に新工場 体外診断・分子診断に関わる製品の開発・生産能力強化

日立ハイテクは、体外診断・分子診断に関わる製品の開発・生産能力強化を目指すし、茨城県ひたちなか市足崎に新たに工場を建設する。同社は体外診断市場において、血液などの検体を分析し疾病の診断をサポートする生化学・免疫分析装置などをグローバルに提供し、今後のさらなる需要拡大に対応し、新たな注力領域である分子診断関連装置の開発・製造を進めるため新工場を建設する。2025年1月の稼働開始に向け、既存建屋の改築を行い、製造・製品検査の自動化推進や、市場変動への柔軟な対応を実現する生産管理システムの導入など、生産効率化にも取り組んでいく。また、日立ハイテクは2027年度までに全事業所(ファクトリー・オフィス)でのカーボンニュートラル達成を目標に掲げており、新工場においてもさまざまな環境施策を導入し、脱炭素社会の実現を目指す。敷地面積は約9万2900平方メートル。

■大同特殊鋼、群馬県渋川市の渋川工場に増設した特殊溶解炉が稼働開始

大同特殊鋼は、群馬県渋川市の渋川工場に増設した特殊溶解炉が稼働を開始した。今後需要が高まることが予想されるニッケル合金やクリーンステンレスなどの高級鋼の増産に備えて、これらの製造に不可欠な真空アーク再溶解炉(VAR) 1基を投資額7.5億円を増設した。

■ローム、宮崎県のソーラーフロンティア旧国富工場の取得完了 SiCパワー半導体の主力工場へ

ロームは、ソーラーフロンティアと締結した基本合意に基づき、宮崎県東諸県郡国富町の同社旧国富工場を取得。今後、同社の製造子会社であるラピスセミコ

ンダクタの宮崎第二工場として整備・運営を行い、SiCパワー半導体の主力生産拠点として2024年中の稼働を予定している。新工場は敷地面積40万平方メートル、建物は23万平方メートル。一部の敷地と建物はソーラーフロンティアが事業所として継続利用する。

■アーリーフーズ、神奈川県横須賀市に新工場

弁当・おにぎり・寿司・調理パンなどの企画・製造・販売を行う中食メーカーのアーリーフーズは、神奈川県横須賀市平成町に新工場を建設する。2025年12月、操業開始予定。

■アサヒビール、佐賀県鳥栖市の鳥栖工場の操業開始を延期

アサヒグループホールディングスは、2026年から予定していた佐賀県鳥栖市のアサヒビール鳥栖工場の操業開始を延期する。同工場は、約400億円を投資して次世代生産体制のモデル工場として準備を進めてきたが、建設や設備などにかかる費用が当初計画から大幅に高騰したことを受け、稼働時期を延期し2029年からの操業開始を目指す。またアサヒビール博多工場は2025年末をめどに操業を終了する予定だったが、鳥栖工場の延期に伴って操業を延長する。

海外

■大同特殊鋼、ベトナムに金型用鋼の販売や金型用プレート加工の新工場

大同特殊鋼の子会社のベトナム・DAIDO DMS VIETNAM CO.,LTD.(DMSV) は、ベトナムフニン省に新工場を稼働開始した。DMSVは大同特殊鋼と大同DMソリューションで2008年にベトナムに設立した金型用鋼の加工販売拠点。今回、事業拡大に備えて新工場を建設し、2023年5月に旧工場から転居、同月に稼働を開始した。新工場は旧工場の約3倍の面積を持ち在庫保管能力を強化したほか、機械加工ラインに加えて、新たに熱処理ラインと表面処理ラインを導入し製造プロセスを拡張した。設備能力は製造は月産80トン、倉庫は保管能力700トン。敷地面積は9955平方メートル。

Just in your products
Just Products
挑戦する盤メーカーをサポートする会社
 コスト、生産性、脱炭素。それだけにどまらない、鋼バー加工の外注化のメリットをお伝えします。
株式会社ジャストプロダクツ



世界の製造業が採用
IPC 品質標準規格



グローバルに通用する製品品質を備え、世界各地での躍の第一歩に――



ジャパンユニックスではIPCの標準規格書・情報・サービスを提供しています

はんだ付工程を
 見える化する

卓上型はんだ付ロボット UNIX-DF シリーズ

- 『Soldering Manager』ではんだ付のIoT化へ
 ジャパンユニックス独自のはんだ付ロボット管理ソフトウェア・『Soldering Manager』を使用して
 モニタリング・稼働ログの保存が可能
- 3D ソルダリングの実現
 付加軸2軸を加えた6軸同時制御により
 ロボット操作のみで複雑形状の製品へのはんだ付が容易に



IPC 標準規格書 無料版 まずはwebからダウンロード 『IPC』『規格』『無料』で検索

ジャパンユニックス製品 導入事例集 webにて公開 『はんだ付 導入事例』で検索

株式会社 ジャパンユニックス
<http://www.japanunix.com>

本社 〒107-0052 東京都港区赤坂2-21-25 Tel. 03-3588-0551 Fax. 03-3588-0554
 大阪営業所 Tel. 06-6190-4580 Fax. 06-6190-4581 名古屋営業所 Tel. 052-679-2111 Fax. 052-679-2112 テクノセンター Tel. 096-287-4501 Fax. 096-287-4503